

- 2011/01/31 墓地紛争：キリスト教 v s ヒンドゥー教
- 2011/01/25 ネットメディアのネパール流リニューアル
- 2011/01/24 マオイスト政権, 5日以内に成立?
- 2011/01/23 人民解放軍, 政府引き渡し完了
- 2011/01/22 山麓マラソンの酔狂と平和貢献
- 2011/01/21 人民解放軍, 政府へ引き渡し
- 2011/01/19 第三の性, 公認
- 2011/01/17 UNMIN撤退はインド外交の勝利
- 2011/01/16 UNMIN撤退の悲喜劇
- 2011/01/15 UNMIN平和構築支援は失敗, バン国連事務総長
- 2011/01/13 瀬戸際政治, 首相選とUNMIN延長
- 2011/01/12 英語からネパール語を守れ, ネパール首相
- 2011/01/11 憲法情報センター報告書に見る理念と現実
- 2011/01/10 ロイは無実だ, HRW / A.セン
- 2011/01/09 要注意! [www.nepalnews.com](http://www.nepalnews.com)
- 2011/01/08 UNMINはマオイストの金蔓だ, ネパール首相
- 2011/01/07 PLA無条件引き渡し拒否, UNMIN代表
- 2011/01/04 UNMIN延長拒否、ネパール首相
- 2011/01/01 謹賀新年 2011年元旦

# ネパール評論 Nepal Review

ネパール研究会

## 1月 2011のアーカイブ

### 墓地紛争：キリスト教 v s ヒンドゥー教

国家世俗化は、墓地まで政争の具とし始めた。死にかかわることであり、こじれると宗教紛争になりかねない。

これまでキリスト教はパシュパティナートの森(Sleshmantak)を墓地として使用してきた。一遺体の埋葬1600ルピー。ところが、パシュパティナート寺院当局が、そこは寺院のものであるとして、1月から使用禁止としてしまった。

墓地を失ったキリスト教たちは、政府が救済策をとらないなら、遺体を制憲議会前、あるいはシンハダルパール（官庁街）に並べる、と宣言した。

このキリスト教の墓地要求運動を支援しているのが「キリスト教会新憲法提案委員会」。国家世俗化を求めるキリスト教会が、国家にキリスト教会墓地の提供を要求する。なんたる皮肉か！これまで私は、キリスト教会がこんな政治圧力団体をつくっていることを全く知らなかった。宗教と政治——これはやっかいだ。

ネパールのキリスト教会が政治に介入すれば、当然、世界中のキリスト教会がそれへの支援に回る。墓地問題は、ネパール宗教紛争の引き金になりかねない。

そもそもキリスト教とヒンドゥー教では、死生観が全く異なる。キリスト教、特にカトリックにとって、遺体は死後の復活に不可欠のものであり、遺体は可能な限り完全な形で墓地で保存しなければならない。自分の身体がないと、最後の審判のとき、復活し神のもとで永遠の命をえることができないからだ。イエスは、その身体のまま復活した。イエスを信じるキリスト教は、イエスにならない自分たちも生前の身体をもって復活できると信じているのだ。

これに対し、ヒンドゥー教は、一部の人を除き墓をつくらない。亡くなったら、パシュパティナートかどこかで荼毘に付され、遺灰はガンジスに流してもらう。これにより、身体は自然に帰り、魂は輪廻転生するか解脱することになる。

このようにキリスト教とヒンドゥー教では、遺体の位置づけが全く異なる。遺体は、キリスト教にとっては聖なるものであるのに対し、ヒンドゥー教にとっては死でケガれたものであるにすぎない。ケガれた遺体など、ヒンドゥー教は保存したいと思わないだろう。両者の相互理解は絶望的だ。

キリスト教会憲法提案委員会がキリスト教の埋葬の権利をキリスト教諸国に訴え、諸外国が「人権」を理由にネパール政治に介入しはじめたら、どうなるか？遺体をシンハダルパール前に並べる——これはショッキングな光景であり、世界世論は沸騰、ネパール政府は激しいバッシングを浴びるだろう。

これに対し、ヒンドゥー教も激高し原理主義が支持を拡大、キリスト教会への反撃が始まるだろう。

これは、キリスト教にもヒンドゥー教にとっても不幸なことである。何とか、政治問題化させずに解決できないだろうか？たとえば、しばらくはキリスト教の墓地使用をこれまで通り黙認し、その間に代替墓地を探し徐々に移転する、といったやり方である。死は人生の最大関心事。これを政治問題にしてはならない。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2011/01/31 09:08

カテゴリ: 宗教, 文化, 人権  
タグ: キリスト教, ヒンドゥー教, 墓, 復活, 死

### ネットメディアのネパール流リニューアル

ネパールの二大ネットメディア、ekantipurとnepalnews.comが、HPの改変をやっている。いずれも根本的なリニューアルであり、それがなぜ同時なのか不思議だ。

いかにもネパール的と感心させられるのが、どちらもHP改変のアナウンスをほとんどせず、一方的に改変を進めていること。

nepalnews.comは、アドレスまで変えたのに明確な告知はなかった。おかげで、Yahoo検索で新アドレスを探し、書き換えざるをえなかった。私企業なのにお役所的というか、いかにもネパール的だ。

新HPの特徴は、日本語宣伝が増えたこと。日本からの読者には日本の広告を表示するように改めたのだろう。こちらか



[Nepal Review \(English\)](#)  
[ネパール評論 HP版](#)  
[谷川研究室](#)

[IN-NET](#)  
[ネパールの空の下](#)  
[Kathmandu Journal](#)

□□□□□□□□

□□□□

[Facebookの恐怖](#)  
[墓地紛争, ヒンドゥー惨敗か?](#)  
[対日ネパール人輸出, あるいは新三角貿易](#)  
[日本ポルノとネパール性タブー](#)  
[墓地紛争:キリスト教v s ヒンドゥー教](#)  
[売春カーストと性産業セックスワーカー](#)  
[BIPに屈したプラチャンダ首相](#)  
[政党シンボルマーク](#)  
[失業とハゲタカ金融](#)  
[首相選挙, 17回目投票](#)  
[ブログ引越を検討中](#)  
[宮島喬『ヨーロッパ市民の誕生』\(7\)](#)

[Landgren NC Roy UML](#)

[UNMIN](#) [インドカ](#)  
[シミール](#) [キリスト](#)  
[教](#) [コイララ](#) [コングレス](#)  
[ゴルカ](#) [ジェンダー](#) [スジャー](#)  
[タ](#) [ネパール首相](#) [パキ](#)  
[スタン](#) [パラス](#) [ヒンドゥー教](#) [ブ](#)  
[ログ](#) [プラチャ](#)  
[ン](#) [ダ](#) [マオ](#) [イスト](#) [中央](#)  
[即応](#) [集団](#) [人民](#) [民主](#) [主義](#) [人](#)  
[民](#) [解放](#) [軍](#) [停戦](#) [監視](#) [共同](#)  
[体](#) [制](#) [憲](#) [議](#) [会](#) [労](#) [農](#) [党](#) [原理](#)

らすれば、宣伝も含めネパール情報が欲しいのに、困った過剰サービスだ。日本からの広告費をあてにしているのだから。

ekantipurの方はまだHP改変中で、ときどき変な表示になる。こちらも告知なし。ネパール流を知らないと、ウィルスかとびっくりし、閲覧をやめてしまうだろう。不親切この上ない。

こちら、nepalnews.comと同様、新HPを完全に仕上げから切り替えるのではなく、楽屋裏をモロ見せつつ、改変を進めている。面白いといえば面白い。やはり日本語宣伝を増やすのだろう。

ところで、私のこのブログもMSからWordPressに移行して、2カ月ほど経過した。かなり慣れたが、それでもまだ使いこなせてはいない。

幸い、アクセス数は徐々に回復し、最近では、1日250回くらいになっている。限定された領域の固い内容なのに、予想以上に多くの方に読んでいただいている。

大手メディアのような高度なHPはつくれないが、ネパール情報の紹介と分析を可能な限り続けていきたいと思っている。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2011/01/25 23:57

カテゴリ: [情報IT](#), [文化](#)  
タグ: [ブログ](#), [Kantipur](#), [Mercantile](#)

## マオイスト政権、5日以内に成立？

プラチャンダ党首が23日、5日以内にマオイスト政権が成立すると語った。人民解放軍（PLA）指揮権を放棄した見返りらしい。そんな取引があって不思議ではない。

ヒマラヤタイムズ記事（1/24）からは発言の微妙なニュアンスは分からないが、プラチャンダ党首は「PLAはもはやCPN-Mの戦闘員ではない」という趣旨のことを語り、それをもってCPN-Mの民主性、平和指向の証とした。表面的には、PLA指揮権と引き替えに、首相職を手に入れる作戦といってよい。

ネパールのこと、裏があるのであろうが、今のところ、それは分からない。PLA戦闘員の多くにも分からないのではないか？ 売られた、捨てられた、と感じる人も少なくないだろう。

すでにリパブリカ(1/24)は、PLA幹部たちにインタビューし、彼らの「屈辱的統合」には応じられない、という怒りの声を伝えている。

どうなるか？ もう少しすれば、筋道が見えてくるだろう。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2011/01/24 22:36

カテゴリ: [マオイスト](#), [人民戦争](#)  
タグ: [プラチャンダ](#), [人民解放軍](#)

## 人民解放軍、政府引き渡し完了

1月22日、マオイスト人民解放軍（PLA）の指揮権がネパール政府に引き渡された。マオイストの勝利か全面降伏か？ プラチャンダ党首はPLAを国軍に組み込ませたのか、それともPLAを国家に売り渡したのか？

国連＝UNMINのどんでん返し大勝利か、それともマオイスト＝NC＝UMLの国益のための一時的共闘——国連のメンツを立て恩を売る——作戦なのか？

今のところ、何ともいえない。外交上手のネパールのこと、先進国や国連を手玉にとることくらい、朝飯前だろう。



ekantipur, 23 Jan

#### 1. プラチャンダ演説

プラチャンダ党首とネパール首相による合意書署名により、22日からPLAは「監視・統合・復帰特別委員会」の指揮下に入った。そして、委員会は、当然、首相の指揮下にあるから、PLAの最高指揮権は首相に移ったといってもよい。これについて、プラチャンダ党首は式典において、こう述べている。

「今日から、すべてのマオイスト戦闘員は正式に特別委員会の指揮下に入った。」(AP,22 Jan)

「ネパールは、政治的移行の最終段階に入った。統合・復帰が完了するまで、この国は1国2軍隊にとどまる。われらが戦闘員の統合・復帰プロセスにより、強力な国家安全保障メカニズムをつくっていきたい。」(Himalayan Times, 22 Jan)

#### 2. ネパール首相演説

ネパール首相もこう述べている。

「PLAはいまや国家の責任の下にある。」(ekantipur,22 Jan)

「これからは政府が監視・統合・復帰など、全責任を引き受ける。」(AP,22 Jan)

「つい先刻まで諸君はネパール共産党マオイストの活動家であったが、いまでは諸君は特別委員会の指揮下にある。」

「当然、諸君の任務も変化した。社会復帰希望者は政治活動に入ってもよいが、治安諸機関への統合希望者はどのような政党の党員であることも認められない。統合希望者は、非政治的・専門職的な独立の国家治安諸機関のメンバーとして献身することになる。宿営所にとどまる限り、諸君は特別委員会の決定と命令に従わなければならない。」(Himalayan Times,22 Jan)

#### 3. プラチャンダ党首とネパール首相の偉業か？

この新聞報道から見る限り、つまり表向きは、ネパール首相の完全勝利であり、マオイストの全面降伏である。プラチャンダ党首は、PLA 1万9千人を国家(NC=UML=国軍)に売り渡したことになる。

ネパールの歴史を見ると、急進派の指導者たちが、庶民の不满を代弁して反政府運動を展開し、その運動を通して自分たちの権勢を拡大し為政者たちにそれを認めさせると、一転して、獲得した既得権益を守るため、運動に参加してきた「人民」を見捨て、体制側に寝返るといった事例が少なくない。とくに共産主義運動は、そうした反体制エリートたちの人民裏切りの繰り返しであったといってもよいだろう。

では、22日のPLA指揮権放棄は、どうか？これは難しい。プラチャンダ党首は、統合・復帰が完了するまでは、ネパールは1国2軍隊だ、といっている。また、「特別委員会」にはマオイストも最大政党として当然参加している。あるいは、マオイストが政権与党になれば、マオイスト党首が堂々とPLAと国軍の指揮権を行使し、国軍へのPLA浸透を図ることも出来るわけだ。

それゆえ、22日のPLA指揮権引き渡し of 正確な評価は、現時点では、難しい。ただ、これまでの展開からみて、はじめに述べたように、PLA引き渡しは、国益のためのマオイスト=NC=UML共闘——国連・国際社会からカネを引き出すための共謀共闘——の可能性が高い、ということはいえるであろう。

もしそうなら、国連高官や、日本をのぞく諸外国大使を招いて賑々しく挙行された引き渡し式典が終了し、援助継続の約束さえとりつけてしまえば、また以前と同じような紛争状態に復帰してしまうことになる。

#### 4. ノーベル平和賞？

もしこのPLA指揮権引き渡し成功し、ネパールに平和が訪れるなら、プラチャンダ党首とネパール首相にノーベル平和賞が授与される可能性が出てくる。ネパールは国連平和構築のモデル国となるのだから。

しかしながら、諸般の状況を総合して考えると、コイララ翁ですらもらえなかったノーベル平和賞がネパールに来る可能性は、いまのところほとんどない、といわざるをえない。残念ではあるが。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2011/01/23 17:01

カテゴリー: [マオイスト](#), [平和](#), [人民戦争](#)  
タグ: [ネパール首相](#), [プラチンダ](#), [UNMIN](#), [平和賞](#), [平和構築](#), [人民解放軍](#)

## 山麓マラソンの酔狂と平和貢献

某ネパール情報によると、鉄の女や男が、またまたアンナプルナ山麓を走ったらしい。50~100km。わが青春時代に、ヒィヒィ、ゼィゼィいながら這うようにして登ったあの急峻な山腹を駆け上り駆け下ったというから、「なんと酔狂な！」とあきれのやら、感心するやら。何の因果で、こんな苦行をやらねばならないのだろう？



ガンドルン(1985)

まあ、人間は食って寝て生涯を終えることでは満足できないやっかいな動物、何かをせざるを得ないらしい。何をするか？ 限られた人生、どうせなら面白いことに限る。では、何が面白いのか？ 面白いのは、一言でいえば、役に立たないこと。役に立つこと、特に金儲けや出世が目的となると、活動は手段となり、面白くなくなる。活動は、それ自体を目的とするとき、他の役には立たず、それゆえ面白い。何の役にも立たない物好き、酔狂な活動こそが、人間をして無我夢中にさせるのだ。

ヒマラヤ・マラソンは、その典型だ。こんなことをやっても、何の役にも立たない。苦しいだけだ。怪我をしたり、下手をすると死ぬかもしれない。損得からいえば、損するだけ。それでも、鉄の男や鉄の女が、とりつかれたように無我夢中になって走ったらしい。酔狂なことだ。なぜ、そんな(損な)ことをするのか？ 面白いから、としか考えられない。

活動に没入し酔狂に徹すると、雑念(金儲けや出世)が滅却され、人は純化される。一心不乱に遊ぶ子供のようなものだ。この無邪気な子供は、雑念をもたないから、自分たちの体験を共有し理解し合えるのだ。

アンナプルナ・マラソンには、外国からも酔狂な人々が多数参加したという。彼ら、鉄の女と鉄の男は、雑念を振り払って走り、走りながら雑念を振り払い、自然人に返っていったのだろう。彼らは走るという純粹経験を共有し、そこからは深い相互理解が生まれる。スポーツとは、本来、そのようなものであるはずだ。



ガンドルン(1985)

これと対照的なのが、近頃のプロ・サッカー。ナショナリズム丸出しで、私は大嫌いだ。入場時の子供利用もイヤらしい。オリンピックも大嫌い。国旗掲揚なんか見たくもない。サッカーもオリンピックも、スポーツではない。我利我利亡者の争いが、本来のスポーツであるはずがない。

アンナプルナ・マラソンでも、ネパール国軍からの参加者が、途中で車に便乗するなど、ズルをしたらしい。走ることが手段になると、そのようなことが起こる。こんな体験は共有できない(共有したら山麓マラソンは成立しない)。しかし、そんなズルは例外であり、ほとんどの人は走ることそれ自体を目的に走り、体験を共有し、相互理解を深めあったという。

ヒマラヤ・マラソンは、平和貢献を目的にはしていない。走ることそれ自体が目的であろう。が、逆説的ながら、その

ような非政治的な経験の共有こそが、相互理解の拡大・深化をすすめて、平和に大きく貢献することになるのである。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2011/01/22 22:08

カテゴリ: [平和](#), [文化](#)  
タグ: [アンナブルナ](#), [オリンピック](#), [ガンドルン](#), [サッカー](#), [スポーツ](#), [ダンブス](#), [マラソン](#)

## 人民解放軍，政府へ引き渡し

明日1月22日、人民解放軍（PLA）の指揮権が首相に引き渡される。不覚なことに、そんな取り決めになっていたとは全く知らなかった。しかし、そんなスゴイことが、本当に出来るのだろうか？

リパブリカ（1月21日）によれば、22日チトワン・シャクティコール宿営所において引渡式典が挙行され、そこでプラチャンダ党首がPLA指揮権を首相（マオイスト戦闘員監視・統合・復帰特別委員会）に引き渡す文書に署名、マオイスト軍旗を首相に渡し、午前11時からPLAは首相指揮下にはいる。宿営所のマオイスト旗は降ろされ、ネパール国旗が掲げられる。

これはスゴイ！PLAのメンツも何もあったものではない。全面降伏ではないか。本当にこんなことが出来るのか？

式典には、来賓多数が出席する。政治家や高級官僚は国軍がお世話する。各国大使、国連官僚は、もちろんUNMINの豪華ヘリだ。さら星のごとき来賓のお歴々。PLA引き渡しの成功は間違いない。僭越ながら、私が保証してもよい。

で、ここで不思議なのが、招待されている各国大使たち——中国、デンマーク、仏、フィンランド、独、印、ノルウェー、露、スイス、英、米。あれ！日本がない。精鋭陸自隊員をUNMINに派遣しているのに、それはないよね！一体全体、どうしたんでしょうね。

リパブリカ記事の間違いに違いない。よく早とちりする新聞だから。しかし、もしも、もしもですよ、リパブリカ記事が事実とすると、ネパールは日本を完全にバカにしていることになる。カネと人を出させて、敬意のひとかけらも示さない。お人好し、日本！

もちろん、日本政府が、平和主義の理念に立ち、軍事関係行事には大使を出席させることはできないとして招待を断ったのなら、わたしはその勇気ある決定を高く評価し、全面的支持をいささかも惜しむものではないが。

■追加(2011.1.22。写真はRepublicaより)



記念式典の女性兵士



チトワン宿営所。数年前、この中で大隊長インタビューをした。懐かしい。お元気だろうか。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2011/01/21 23:30

カテゴリ: [マオイスト](#), [平和](#), [人民戦争](#)  
タグ: [プラチャンダ](#), [UNMIN](#), [日本外交](#), [人民解放軍](#)

## 第三の性，公認

5月開始のネパール国勢調査で、男女に加え「**第三の性**」が正式分類項目に加えられるという(International Daily News, 11 Jan)。ネパールでは、先進国では考えられないような速度で社会規範の弛緩が進み、最も強固と見られてきた男女区分も融解し、ついに「第三の性」公認となった。これについては、以下も参照。

[PLAから学ぶ、ジェンダーフリーSDF](#)

[ネパール秘義政治とインド性治学](#)

[アイデンティティ政治実験の愚](#)

[パルバティ同志、ヒシラ・ヤミ\(2e\)](#)

[カトマンズ性浄化：Amoral or Immoral](#)

もともと男女間は、あれかこれかの二者択一ではなく、「男らしい男」から「女らしい女」まで、ゆるやかにアナログ変化するものである。それを「男」と「女」にデジタル区分してきたのは、その方が社会の認識・統治にとって便利だからに過ぎない。だから男女二分法をやめ、ネパールのように「男(第一の性)」「女(第二の性)」「いずれでもない(第三の性)」の三区分にしても、その限りでは何ら問題はないわけだ。

しかし、この性の三区分にも合理的根拠があるわけではない。消極的(negative)定義で満足しているうちはよいが、いずれ「第三の性」アイデンティティの積極的(positive)定義に進み、自分たち独自の権利の要求となることは避けられない。そうなったとき、今度は「第四の性」が問題となるであろう。

われわれは、物事に「名前」をつけることによって、それを他から区別し認識する。命名それ自体が他との区別ないし差別を意味しているのだ。

ネパールが「第三の性」を公認し国勢調査項目に入れたり、「第三の性」身分証明書(住民登録証)を発行したりすることは、たしかに人間の因習的定義付けからの解放であり自由の拡大となる。それはそうだが、しかしそれにもかかわらず、「そんなことをやって、どうなるの?」といった疑念が払拭しきれないのもまた事実である。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2011/01/19 10:35

カテゴリ: [社会](#), [人権](#)  
タグ: [ジェンダー](#), [第三の性](#), [認識](#), [名前](#)

## UNMIN撤退はインド外交の勝利

Hindustan Times(15 Jan)によれば、UNMIN撤退はインド国連外交の「大勝利」だという。

「インドはUNMIN延長阻止を国連安保理メンバーに働きかけてきた。国連安保理は昨年9月以降の進展の欠如を理由にUNMIN終結を票決した。」

「危うい状況だ。ネパールの政治家が自分たちで問題を解決すべきだ。」

インドが国連のネパール介入を嫌っていたことは周知の事実だが、安保理でのこのような動きは初耳だ。インドの外交力はたいしたものだ

それともう一つ、興味深いのは、Pakistan Defence(17 Jan)がこの記事を丸ごと転載し、しかも上記引用部分に強調を付していることだ。軍事情報関係メディアらしいが、パキスタンは対インドの観点から、インドのネパール政策に神経をとがらせている。

いやはや、南アジアは難しいところだ。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2011/01/17 23:06

カテゴリ: [インド](#), [ネパール](#), [外交](#)  
タグ: [パキスタン](#), [UNMIN](#), [国連](#), [安保理](#)

## UNMIN撤退の悲喜劇

UNMINは、何とか形だけ整え、1月15日をもって任務を終了した。いつものことだが、土壇場で三党合意が成立、UNMIN受け皿として「軍統合特別委員会局」が設立されたのだ。(また役所がひとつ増えたが。)

本当に、ネパールの政治家たちは交渉ごとに熟達している。散々けなし悪口を言いたい放題いったあとで、もっとも効果的な最後の最後で、相手の顔を立て、恩を売る。見事だ。

こうして恩を売りつつ、さらにすごいのが、カネのむしり取り。ekantipur(16 Jan)によれば、UNMINはラジャ空港(ネ

パールガンジ付近?) やポカラ空港の使用料をまだ払っていない。出て行くな、使用料2千万ルピーを航空局に払えと要求されている。これをみても、UNMINが金蔓であったことがよくわかる。

これも滑稽だが、それ以上に滑稽というか悲喜劇とってよいのが、ランドグレンUNMIN代表のマダブクマール・ネパール首相訪問。代表はおそらくキリスト教徒であろうが、UNMIN離任挨拶に行ったネパール首相から、平和貢献へのお礼として、なんと仏像を贈られたのだ(Rising Nepal, 16 Jan)。



平和の象徴・仏像の贈呈(Rising Nepal, 16 Jan)

私は仏教徒であり、仏様をイエス・キリストと並ぶ偉大な平和の使徒と信じ、尊敬している。しかし、それとこれは話が違ふ。先進国と国連は、ネパールに世俗化を押しつけ、それを暫定憲法に書かせた。それなのに、このざまなのだ。

ネパール首相は一人ではなく、世俗ネパール国家の最高権力者だ。ランドグレン氏もUNMIN代表として首相を訪問している。これは国連とネパール国家との間の公式行事なのだ。それなのに、首相が仏像を贈り、それをランドグレン代表が受け取る。これを悲喜劇といわずして何という。

想像力の欠如、人権無視も甚だしい。国家最高権力者が公式行事で仏像を贈る——それをキリスト教徒、イスラム教徒、共産主義者、無神論者らはどう思うか? いや、ヒンドゥー教徒であっても不快に思う人は少なくあるまい。信仰の自由の明白な侵害ではないか?

結局、先進国や国連がやってきたことは、たとえば国家世俗化についてはこの程度のことなのだ。他の多くの問題についても同じではないか? ネパールは、根本的には何も変わっていない。ネパールにはネパールの強固な文化的伝統があるのだ。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2011/01/16 21:27

カテゴリ: 宗教, 憲法, 文化, 人権  
タグ: イスラム教, キリスト教, UNMIN, 政教分離, 世俗国家, 仏教

## UNMIN平和構築支援は失敗、バン国連事務総長

バン国連事務総長は、UNMIN撤退式典メッセージにおいて、「残念ながら進展は不十分だった」と述べ、UNMIN平和構築支援の失敗を事実上認めた(UN News service, 14 Jan)。

ランドグレンUNMIN代表自身が安保理で、ネパール平和プロセスは「座礁状態」にあり、UNMIN撤退後はマオイスト武装蜂起か軍クーデターの可能性がある、と説明したのだから、バン事務総長の失敗メッセージも当然といえよう。(Cf. "Nepal's Restive Revolutionaries-Unease about a new Maoist revolt flares up as U.N. peace monitors leave," Newsweek, 13 Jan)

もちろん、バン事務総長もUNMINの功績をたたえてはいる。

「UNMINは、歴史的な2008年制憲議会選挙を支援した。これは、武器監視協定・停戦協定の実施をモニターする任務と並ぶUNMINの主要任務の一つであった」(UN News Service, 14 Jan)。

たしかに、UNMINの停戦監視はある意味では「大成功」(ランドグレン代表, UN Daily News, 10 Jan)であったし、制憲議会選挙も成功裡に実施された。

しかし、その反面、肝心のPLA統合は全くの手つかずだし、また「歴史的」と賞賛された制憲議会選挙にしても、選挙民

主主義イデオロギーからすればそういえるだけのことであって、実際には、それは平和実現にはほとんど貢献していない。むしろ、選挙はアイデンティティ政治を激化させ、統治を困難にさせる側面の方がはるかに大きかった。これは制憲議会選挙後の政治の不安定化をみれば一目瞭然である。首相ですら、2010年7月以来、16回の選挙をやってもまだ決められないのだ。

さらに新憲法制定にしても、たとえつじつま合わせのため憲法を作文し各条文を新理論でけばけばしく飾り立ててみても、それでどうなるものでもない。画餅にすぎない。その絵空事新憲法作文ですら、まだ出来ていない。

選挙民主主義イデオロギー、包摂民主主義イデオロギー、連邦制イデオロギー、民族自治イデオロギーなど、様々な新薬をネパールにぶちまけ、いくら副作用が出て、あとは知らんよ、と出て行く。そりゃ、いくらなんでも無責任ではないか？

バン事務総長は「諸政党には信頼構築努力をひとえにお願いしたい」(UN News service, 14 Jan)といている。民主主義未成熟で相互不信があまりにも強く、そのため国連は平和構築支援に失敗した、と考えているからであろう。

しかし、M. ウェーバーが言うように、政治は結果責任である。ネパールが途上国で、民主主義未成熟はわかりきったこと。そこに、先進諸国でも実現不可能なような最先端の高尚な政治諸理念を持ち込み、押しつけた。責任は、先進国、国連側にある。

マイノリティの権利は、包摂民主主義でも比例選挙でも守られはしない。たとえ代表されたとしても、人口比(2001年)でラウテは49万分の1 (0.003%)、シェルパですら147分の1 (0.7%) にすぎない。多数決では絶対に勝てないし、さりとて拒否権を認めれば、何も決められない。民主主義では人権は守られない。

マイノリティの権利、弱者の人権を本当に守るつもりなら、真の意味の「法の支配」と、多数派を押さえ込み、法を適用することの出来る強力無比の中央権力が不可欠だ。そんな常識ですら無視して無謀に介入するから、こんなことになるのだ。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2011/01/15 16:01

カテゴリー: [選挙](#), [平和](#), [憲法](#), [民族](#), [民主主義](#), [人民戦争](#)  
タグ: [連邦制](#), [UNMIN](#), [包摂](#), [国連](#), [平和構築](#), [民族自治](#), [法の支配](#)

[« 昔の投稿](#)

# ネパール評論 Nepal Review

ネパール研究会

## 1月 2011のアーカイブ

### 瀬戸際政治，首相選とUNMIN延長

ネパール政治はいよいよ切羽詰まってきた。15日でUNMIN任期切れ，とにかく決めねばならない。

首相選挙は，1月12日に第17回投票が予定されていたが，マオイストに加えUMLもポウデル候補に反対投票することを決めたため，NCは結局ポウデル氏擁立をあきらめ，何らかの挙国政権の樹立を目指すことになった。まだどうなるかわからないが，次の第17回選挙で新首相選出の可能性が出てきた。むろん，新首相候補を誰にするかで合意があるわけではなく，またまたどたばたの再現となるかもしれない。

もう一つが，UNMIN撤退問題。これもよくわからない。ランドグレン代表は，「最後の」記者会見で，もし当事者の合意があれば，UNMIN延長もあり得るとか，国連は今後3年間ネパールに関与し続けるとか説明している。安保理は，明日14日の会議で，ネパール情勢をみつづ方針を決定する予定とのこと。まさしく瀬戸際政治，難しいものだ。

いずれにせよ，この数日でなんらかの選択と決定がなされるだろう。目が離せない。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2011/01/13 22:45

カテゴリー: 平和, 政治  
タグ: 首相, UNMIN

### 英語からネパール語を守れ，ネパール首相

ネパールアカデミー主催「ネパール語セミナー」開会式において，マダブクマール・ネパール首相が，英語からネパール語(the Nepali language)を守れ，と檄を飛ばした。

「標準ネパール語を発展させよ。次世代へ正しい言語を伝えるのがわれらの義務だ。誤りを正すことなくネパール語を放置すれば，新しい世代はそれを正すことができなくなる。」(ekantipur, Jan 12)

首相によると，問題は英語の侵入。それを防止しネパール語を守るために，ネパール語文法を確立すべきだといふのである。

このネパール首相の檄に，ミネンドラ・ラジャル文化相も賛成し，アカデミーと協力し，標準ネパール語の確立に努力する，と約束した。

さすがネパール首相は偉い。ネパールへの英語侵入を憂い，ネパール文化の中核，ネパール語の擁護に回ることを宣言したのだ。

明治日本のやったように，文法(文章ルール)を確立し，正しい国語=標準語を普及させるのが，近代国家の常套手段である。ところが，ポストモダンの現代において，ネパールや他の途上国がそれをやろうとすると，これは世界の市場社会化を目指す先進諸国にとってはいささか都合が悪い。そこで，先進諸国は，自分たちの多文化主義と英語帝国主義をご都合主義的に使い分け，途上国の「国語」政策を時代遅れ，反民主的と非難し，撤回させようと巧妙に働きかけてきたのだ。ネパール首相は，おそらくこの先進諸国の二枚舌政策を見抜き，反撃に出たのだろう。

先進諸国は，すでに1980年代末頃から，ネパール言語政策に介入しはじめていた。多民族=多言語主義を喧伝し，「ネパール国語」を相対化し，「ネパール国民」の文化的統一性を解体することによって，言語の自由市場化を促進すること，これが先進諸国のねらいであった。この言語自由市場化は何をもたらすか？

いうまでもない。市場社会でもっとも有利な言語，つまり英語の勝利だ。初等教育における母語教育権が認められようが，少数言語放送が行われようが，そんなことは英語帝国主義のアリバイ，恥部を隠すイチジクの葉にすぎない。マイノリティが，いくら自民族の言語を学ぼうが，せいぜい身内で使うぐらいで，外の社会では何の役に立たない。目先の利く利口な親なら少数民族言語など学校で習わせたりはしない。外で役に立つ言語，英語を習わせるはずだ。こうして，ネパールでは，伝統的カースト制に代わる新しいカースト制，つまり一流言語=英語，二流言語=ネパール語，三流言語=諸民族語という強固な言語カースト制が出来つつあるのである。

いまネパールでは，有力者，富裕層は競って子供たちをEnglish schoolに通わせている。共産党幹部も少数民族リーダーたちも例外ではない。民族自治やマイノリティの権利擁護を謳いながら，彼ら，幹部たちはあさましくも英語帝国



[Nepal Review \(English\)](#)  
[ネパールの空の下](#)  
[ネパール評論 HP版](#)  
[谷川研究室](#)

[IN-NET](#)  
[ネパールの空の下](#)  
[Kathmandu Journal](#)

□□□□□□□□

□□□□

[Facebookの恐怖](#)  
[墓地紛争，ヒンドゥー惨敗か？](#)  
[対日ネパール人輸出，あるいは新三角貿易](#)  
[日本ポルノとネパール性タブー](#)  
[墓地紛争：キリスト教vsヒンドゥー教](#)  
[売春カーストと性産業セックスワーカー](#)  
[BIPに屈したプラチャンダ首相](#)  
[政党シンボルマーク](#)  
[失業とハゲタカ金融](#)  
[首相選挙，17回目投票](#)  
[ブログ引越を検討中](#)  
[宮島喬『ヨーロッパ市民の誕生』\(7\)](#)

[Landgren NC Roy UML](#)  
[UNMIN](#) [インドカ](#)  
[シミール](#) [キリスト](#)  
[教](#) [コイララ](#) [コングレス](#)  
[ゴルカ](#) [ジェンダー](#) [スジャー](#)  
[タ](#) [ネパール首相](#) [パキス](#)  
[タン](#) [パラス](#) [ヒンドゥー教](#) [ブ](#)  
[ログ](#) [プラチャン](#)  
[ダ](#) [マオイスト](#) [中央](#)  
[即応集団](#) [人民民主主義](#) [人](#)  
[民解放軍](#) [停戦監視](#) [共同](#)  
[体](#) [制憲議会](#) [労農党](#) [原理](#)

主義にしばりを振り振り、自分の子供たちを保育園からEnglish schoolに通わせ、英語漬けにして恬として恥じるところがない。鉄面皮きわまりない。

ネパール首相は、この英語帝国主義の侵入に反撃を加えようとしている。たしかに「国語」「文法」「標準語」は、近代国民国家のイデオロギーであり、国内少数派言語の抑圧になる側面がある。多文化主義全盛の現在からみると、反動といってもよい。しかし、反動覚悟でいうならば、英語（米語）帝国主義への卑屈な屈服よりは、国語擁護の方がはるかに文化的であり、愛国的である。

ここで気になるのが、ネパール首相のご家族、ご親族のことだ。まさか、お子様たちをEnglish schoolに通わせたり、西洋諸国に留学させたりはされていないでしょうね？

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa **編集**  
2011/01/12 15:50

カテゴリ: **教育**, **文化**  
タグ: **ネパール首相**, **英語帝国主義**, **国語**, **多言語主義**, **多文化主義**, **文法**, **標準語**

## 憲法情報センター報告書に見る理念と現実

ネパールでは憲法制定に向け様々な準備が進められている。たとえば、制憲議会は「制憲議会法2008」により「市民関係委員会」と「世論集約調査委員会」を設置し、憲法知識の普及と一般市民からの意見の聴取・集約のための各種事業を行っている。

しかし、これらだけでは不十分なため、「ネパール法協会(Nepal Law Society)」、「民主主義・選挙支援国際機構(International Institute for Democracy and Electoral Assistance=IDEA)」、「国連開発計画-参加型ネパール憲法制定支援プログラム (Support to Participatory Constitution Building in Nepal-UNDP)」が、上記 2委員会と協力し、特に地方住民のために「憲法情報センター(Constitution Information Center=CIC)を設置することになり、2010年8月から設置に着手、12月現在、すでに全国8地区に設置している。ピラトナガル、バラトブル、ポカラ、ネパールガンジ、ダンガディ、イラム、ジャナクプル、ジュムラである。

その報告書(要約版)が出された。

Nepal Law Society / International IDEA / SPCBN, *Summary Report of the Constitution Information Centers, 2010/2011*

この報告書によると、2010年9-11月に76のプログラムが各地で実施され、約5千人が参加した。なかなか頑張っており、その熱意には感心する。“セミナー産業”の傾きがなきにしもあらずとはいえ、地方でのこうした啓蒙活動がまったく無意味というわけでもあるまい。時間を見つけ、明治初期の日本各地の憲法制定運動との比較をやって見たいと思っている。

しかし、ここで気になるのは、やはり憲法制定作業の実際の進捗状況である。制憲議会は、課題別に次の11委員会を設置し、議論を進めている。

- (1)Committee on Protection of National Interest
- (2)Committee on Protection of Fundamental Rights of Minorities and Marginalized Communities
- (3)Committee on Determination of Forms of Constitutional Bodies
- (4)Committee on Determination of Forms of Legislative Organs
- (5)Committee on Determination of Bases of Cultural and Social Solidarity
- (6)Committee on Judicial System
- (7)Constitutional Committee
- (8)Committee on Fundamental Rights and Directive Principles
- (9)Committee on Natural Resources, Economic Rights and Distribution of Revenue
- (10)Committee on Restructuring of State and Distribution of State Powers
- (11)Committee on Determination of Forms of Governance

これは、まさしくゼロからの国家再構築である。その崇高な理念、壮大な意気込みは涼としたいが、一方、本当にこんなことができるのか、やってよいのか、と心配にもなる。

こんな大風呂敷の憲法論は、大学法学部の講義でも4年間やそこらでは到底展開できないであろう。それを、識字さえ心許ないネパールで、国民総参加・総動員で討論し熟議により決めていくのだそう。理念としては美しい。が、こんなことは西洋先進国でも難しいのではないかな？ 本当に大丈夫かな？ 画餅ではないのか？

「報告書」は、最後に結論として、こう述べている。

- ・サウン月20日の第102回会議以降、制憲議会は開かれていない。
- ・制憲議会延長後6ヶ月経過したが、期待したほどの進展はない。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2011/01/11 10:09

カテゴリ: [憲法](#), [民主主義](#)  
タグ: [熟議](#), [IDEA](#), [UNDP](#), [制憲議会](#)

## ロイは無実だ, HRW / A.セン

敬愛するロイが, Binayak Senらとともに, 終身刑もあり得る反国家扇動罪の容疑を掛けられ, 投獄の危機にある。心配だ。

国際社会も, インド政府・社会の不寛容に対し警鐘を鳴らし始めた。Prokerala News(Jan 7)によれば, HRW(Human Right Watch)のM.G. Ganguly南アジア代表が, 「平和的抗議を黙らせるため反国家扇動罪を使うのは抑圧的政府の証拠だ」と批判した。「人権侵害に対し平和的に抗議することは, 言論の自由の核心にある。決して, 反国家扇動ではない。」その通り, 彼のいうことは正しい。

同じく翌日のProkerala News(Jan 8)によれば, 今度はノーベル経済学賞受賞者アマルティア・センが, マオイスト・シンバ嫌疑でビナヤク・センに終身刑を科そうとするのは「正当化し得ない訴追である」と批判し, A. ロイについても, 「[カシミールに関する]ロイ発言は愛国心を傷つけたと非難された。しかし, 愛国心しか表現してはならないといった義務はどこにもない」と弁護した。

またTimes of India(Jan 9)によれば, A.センは, ビナヤク・センに対する終身刑判決(チャッチスガル裁判所)を批判し, こうも述べている――

「反国家的扇動は暴力による国家転覆扇動を意味する。ビナヤクがそのようなことをしたとは聞いていない。……いや逆に, 彼は暴力は悪であるとしている。それは, 反国家的扇動に対する根底からの道徳的批判である。……経済的成長は極めて重要だが, 決して目的それ自体ではない。それは物質的な事柄であって, 人間的な事柄ではない。私自身を含め, ビナヤクらは, 国家の発展は人々の生活を見て判断されるべきだと信じている。」

さすがA.セン, 問題の本質を鋭く突いている。

ところで, このロイやビナヤクに対する反国家扇動罪, 国家反逆罪(treason)での告発そのものは, インド政治の未成熟を物語るが, それはそれとして, わがネパールと比較すると, 議論のレベルの高さ, 鋭さ, つまり「面白さ」には圧倒されざるをえない。ネパールがインド水準に達するのは, いつのことだろうか? いまのところ, 小国ネパールは大国インドには, 議論においても到底及ばない。残念ながら。

本題に戻ると, ロイやビナヤクの反国家扇動罪事件の今後の展開は予断を許さないが, HRWやアムネスティー, あるいはA.センやチョムスキーといった著名な機関や知識人が彼らの弁護に回り始めており, いかなインド国家・社会といえども, これは無視できないであろう。ロイやビナヤクの嫌疑が晴れることを願っている。

■Binayak Sen(1950-)。医者(小児科, 公衆衛生学)として国内外で活動。「市民的自由人民協会」副会長。ポールハリソン賞(2004), RR・ケイタン金賞(2007)。チャッチスガル刑務所投獄中の2008年, 世界保健協会から世界の保健・人権への貢献を認められ表彰される。チャッチスガル裁判所で2010年12月24日, マオイストとの関係を持ち反国家扇動活動をしたとして終身刑を言い渡される。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2011/01/10 12:08

カテゴリ: [インド](#), [マオイスト](#), [民主主義](#), [人権](#)  
タグ: [Amnesty](#), [Chomsky](#), [Roy](#), [sediton](#), [Sen](#)

## 要注意! www.nepalnews.com

マーカントイルのnepalnews.comの動きが変だ。スタイルの全面改訂をしているようだが, ページの読み込み先を見ていると, かなり怪しい。

私はパソコンやネットの素人であり, 詳しいことはまったく分からないが, 今朝, IE画面に次の表示が出た。本当かもしれない。

これは報告されている安全でない Web サイトです。

[www.nepalnews.com](http://www.nepalnews.com)

このページを閲覧しないことを推奨します。

この Web サイトは, 個人情報や金融情報を盗み取る可能性のある, お使いのコンピューターへの脅威を含む Web サイトであると報告されました。

ネパールの代表的大企業の一つマーカントイルのネットサイトであり, まさかとは思うが, 用心はした方がよいだろう。ネットに詳しい方, ご教示ください。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa 編集  
2011/01/09 10:38

カテゴリー: [情報 IT](#)  
タグ: [ウイルス](#), [情報詐欺](#)

## UNMINはマオイストの金蔓だ、ネパール首相

ネパールの非マオイスト政治家・知識人らが、ランドグレンUNMIN代表の安保理発言(1月5日)に対し、烈火のごとく怒っている。たとえば、マダブクマール・ネパール首相は1月7日、こう罵倒した――

「UNMINはマオイストの金蔓になった。……だからマオイストはUNMIN任期延長を願うのだ。……UNMIN撤退で天が落ちるようなことはない。……われらは自らの手で平和と憲法制定を実現できる。」(ekantipur, 7 Jan)

すさまじい怒りだ。一国の首相の言葉とは信じられないくらいだ。国連ネパール代表のギャンチャンドラ・アチャルヤも1月6日、こう非難した――

「[マオイスト人民蜂起や大統領統治あるいは軍クーデターの可能性があるというランドグレン代表の]説明には、何の根拠もない。ネパール政府はそのような分析や評価を全面的に拒否する。」(ekantipur, 7 Jan)

ネパール政府が、自分たちでやれるからUNMINは出て行け、と要求するのに対し、ランドグレン代表は、いやいや、ネパール政治は未熟でまだ自立できない、UNMIN任務は未達成であり、したがって国連関与がまだまだ必要だ、と主張する。

妙なことになってきた。ランドグレン代表は実質的には自らUNMINの失敗を認め、だからUNMIN任期延長か、それが無理なら看板を変えただけの国連監視機関の設置が必要だ、と主張する。彼女は、現状ではUNMIN管理下のPLA資料・武器弾薬・施設や宿営所運営監視権限をネパール政府には引き渡さないと言明しているから、いやでもUNMINか別名の国連機関が居残ることになるわけだ。そう彼女は要求していることになる。

ここに、ランドグレン代表とマオイストとの共闘ないし共犯関係が成立する。UNMINは停戦後平和構築に失敗したから、成功するまで(つまり半永続的に)ネパールに居残りたい、というのが、おそらく本音だろう。一方、マオイストも、ネパール首相が「UNMINはマオイストの金蔓だ」と喝破したことを、内心では、シカリ、その通りと認め、金蔓UNMINにいつまでも居残ってほしいと願っているようだ。ランドグレン代表は安保理でこんなことまで言っている――

「新政府の構築、マオイスト兵の国軍統合・社会復帰、新憲法の制定という最重要課題については、これまでほとんど進展がない。……本日、UNMIN任期終了10日前の今でも、UNMINがその監視任務を引き渡すことのできるメカニズムは存在しない。UNMIN撤退後、何が起るかわからない。……UNMIN撤退が無法状態を生み出すおそれがある。」(Telegraph, 7 Jan)

正直というか、無責任というか、驚くべき発言だ。むしろ“私は停戦後平和構築に失敗したので、責任をとって辞任します”というべきではなかったか。

ネパールの政治家たちは実にしたたかだ。UNMINは、老練ネパール政治に翻弄され、さんざん搾り取られ、非難罵声を浴び、撤退していく。いや、撤退すら許されず、さらに搾り取られることになるかもしれない。酷な評価だが、テレグラフが次の言葉を記事の結びとしたのもやむをえないかもしれない。

「ランドグレンは、ネパール撤退(ouster)を屈辱の追放(ouster)と感じていると思う。」(Telegraph, 7 Jan)



(Telegraph, 7 Jan)

(注)UNMIN関連記事一覧は、右の「検索」かタグでご覧ください。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2011/01/08 12:56

カテゴリ: [マオイスト](#), [外交](#), [平和](#), [人民戦争](#)  
タグ: [Landgren](#), [UNMIN](#), [停戦監視](#), [国連](#), [安保理](#), [平和構築](#)

## PLA無条件引き渡し拒否, UNMIN代表

ランドグレンUNMIN代表が1月6日, 政府とマオイストの合意が成立しなければ, 停戦監視関係資料・武器弾薬・施設を政府に引き渡すことはしない, と宣言した。

ネパール政府は12月31日, UNMINは「特別委員会」(ネパール政府)に一切切引き渡し, さっさと出ていけ, といった趣旨の書簡を国連に提出していた。ランドグレン代表発言は, これへの反論であり, UNMINは人民解放軍 (PLA)を政府 (UML,NC)に無条件引き渡しはしない, と明言したわけだ。

ランドグレン代表は, ネパール政府国連宛書簡について, 「この書簡が特別委員会での合意を反映しておらず, 暫定憲法からも大きく逸脱するものであることは明白である」と政府を激しく非難し, そして「UNMINは合意に基づく後継メカニズムを全面的に支援する用意がある」と約束している。

さらに, こうも語っている。ネパールには, マオイスト人民蜂起のおそれに加え, 「副大統領が最近求めたような大統領統治のおそれや, 国軍クーデターのおそれもあった。そうなれば, 平和とネパールの虚弱民主主義は危機に陥っていたであろう。」

まるでマオイスト応援団のような感じがする。そうしなければ, いまの停戦が崩壊するからであろうが, ここにもUNMIN(国連)の立場の難しさがよく現れている。

これはUNMIN評価にかかわることでもある。ランドグレン代表は「UNMINは4年の任務を終了しネパールを去るが, その活動は国連の誇りというべきであろう」と自画自賛している。たしかに, 国連・UNMINが人民戦争停戦実現に果たした役割は大きく, これは高く評価されるべきだが, その一方, この段階での撤退に追い込まれたことは, 停戦後平和構築には失敗したと見ざるを得ないだろう。

安保理では, ネパール政府のガンチャンドラ・アチャルヤ代表も, UNMINの貢献を讃えた。が, その一方, ネパール政府はUNMINの任務を「特別委員会」に引き継がせる, ときちんと釘を刺している。UNMINは不要だ, と安保理で明言したわけだ。

こうなるとは, UNMIN存続はもはや無理であろう。国連はUNMINの後始末をどうつけるか? これは難しい。

\* “No arms Handover Sans Accord: Landgren,” Republica, 6 Jan 2011

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2011/01/07 12:37

カテゴリ: [マオイスト](#), [平和](#), [人民戦争](#)  
タグ: [Landgren](#), [UNMIN](#), [停戦](#), [安保理](#), [平和構築](#), [人民解放軍](#)

## UNMIN延長拒否、ネパール首相

ネパール政府のランドグレンUNMIN代表宛書簡 (12月31日) の内容が明らかになった。新聞報道によれば, マダブクマール・ネパール首相は, UNMIN延長を拒否し, 人民解放軍 (PLA)監視は「軍統合特別委員会」が引き継ぐ, と明言している。

国軍については, 別のメカニズムをつくり, こちらに監視させる。国軍民主化も, 国防省設置「国軍民主化委員会」にゆだねる。

要するに, UNMINは関係書類と施設・設備を引き渡し, さっさと出て行け, ということらしい。UNMINは, PLAの武器調査・保管, PLA戦闘員の資格審査・名簿作成, 宿営所の運営監視などを担当しており, もし関係資料や施設をそっくり政府側に引き渡し撤退すれば, PLAは丸裸となる。国軍はめでたく国連監視から解放。反革命的名案だ。ネパール首相は本気だろうか?

マオイストは, ランドグレンUNMIN代表にプラチャンダ議長のUNMIN延長要請書簡を託しており, ネパール首相のこんなえげつないマオイスト攻撃を座視できるはずがない。

マオイストが頼りにするのは, 皮肉なことに, 今回もまたもつとも非民主的な機関である最高裁である。ネパール首相のUNMIN代表宛書簡を憲法違反として最高裁に訴え, 無効判決を出させようというのだ。

ネパールは, いよいよ国家の体をなさなくなってきた。政府とマオイストが, 正反対の要請書簡を国連 (UNMIN)に送りつけ, 国連のお裁きを請う。国内では, 議会が解決すべき政治問題を非民主的最低裁に丸投げしてしまう。これが, 世界でもつとも民主的な方法で選出された601人巨大議会の体たらくなのだ。

UNMIN任期終了まであと10日。現状では完全撤退は無理であり, 政府, マオイスト双方の顔が立つよう, 看板を書きか

え、実質的にはUNMINに近い任務を担う国連機関が設置される可能性が高い。

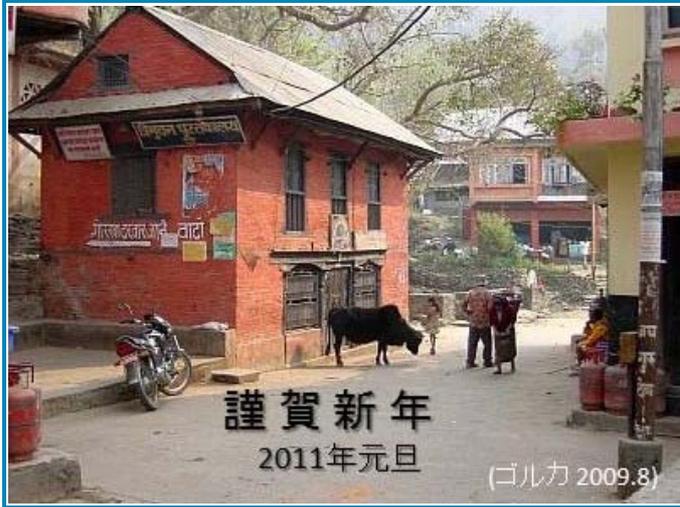
さて、その場合、世界展開を目指すわが中央即応集団派遣陸自隊員はどうなるのだろう。こちらも目が離せない。

谷川昌幸(C)

投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2011/01/04 12:09

カテゴリー: [マオイスト](#), [司法](#), [平和](#), [人民戦争](#)  
タグ: [ネパール首相](#), [PLA](#), [UNMIN](#), [国連](#), [国軍](#)

## 謹賀新年 2011年元旦



投稿者: Tanigawa [編集](#)  
2011/01/01 22:04

カテゴリー: [ネパール](#), [社会](#)  
タグ: [ゴルカ](#), [生](#), [村](#)

[新しい投稿 »](#)